

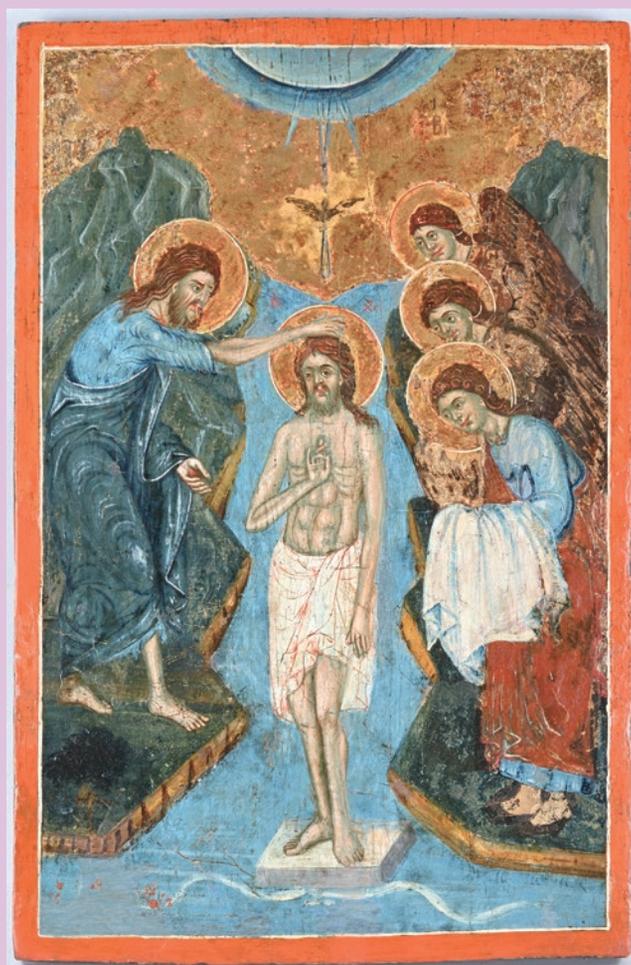


# 博物館ニュース「SHŪ」 NO. 63

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2024年10月20日

玉川大學教育博物館



## 目次

展覧会への招待	2
新館長就任あいさつ	3
報告	4
資料をご寄贈いただきました	5
開館カレンダー	
利用案内	6

## イエス・キリストの洗礼

ギリシア 板・テンペラ 41.4×27.4cm 18世紀

イエス・キリストが30歳の頃、ヨルダン川でバプテスマ（洗礼者）のヨハネから、洗礼を受ける様子を描いています。イエスの頭上に天からの光がふりそそぎ、聖霊の象徴である鳩が羽ばたいています。イエスが水からあがると、天から鳩のような神の霊が舞いおり、「これは私の愛する子、私の心に適う者」という声が聞こえてきたといわれています。このイコンは、洗礼によって父なる神の声を聞いたイエスが、神の子であることを自覚する劇的な瞬間と、父なる神、神の子イエス、聖霊の三者が一体となる三位一体の奇蹟をあらわしています。

## 展覧会への招待

### 玉川学園創立 95 周年記念特別展

#### イコンにであう –キリスト教絵画のみかた–

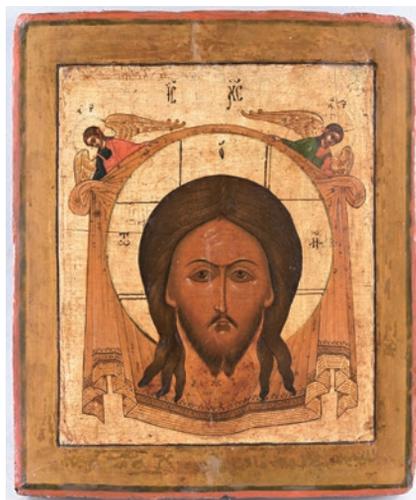
玉川学園は今年、創立 95 周年を迎えました。これを記念して当館では、特別展「イコンにであう –キリスト教絵画のみかた–」を開催いたします。

イコン (icon) とは、「像」を意味するギリシア語のエイコン (eikōn) に由来する呼称です。広義にはキリスト教の聖像全般を含みますが、狭義には東方正教会において崇敬される板絵の聖像画をさします。イコンは、ビザンティン帝国 (東ローマ帝国) の時代に高度な発達をとげ、東方正教会の布教とともに各地にひろまりました。東方正教会を信奉するギリシアやロシア、東ヨーロッパの国々などでは、イコンの制作がさかんにおこなわれ、人々の信仰生活と密接にむすびついてきています。

玉川学園の創立者小原國芳は、1976 年 12 月に訪れた日本橋三越の展覧会でイコンにであいました。そこでキリスト教の聖像画に魅了された小原は、よき宗教教育のためには、よき宗教画が欠かせないとの教育信念から、イコンの収集を決断しました。そのことを契機として本学園では、1979 年の創立 50 周年記念事業の一環としてイコンの収集を開始し、現在までに国内有数のイコン・コレクションを形成してきています。

今回の特別展では、100 点あまりを数える当館のイコン・コレクションのうち、ロシアとギリシアのイコン 49 点に、明治時代の画家山下りんのイコン 6 点を加えた計 55 点の優品を展示し、それぞれの主題や表現の特色、見どころなどをわかりやすく解説することで、イコンがもつ独特の美と魅力を紹介します。

この特別展をとおして、イコンにであい、その美と魅力にふれることで、イコンに祈りを捧げてきた人々の切なる思いを感じ取っていただければ幸いです。



マンディリオン  
ロシア 板・テンペラ 1600 年前後



最後の審判  
ロシア 板・テンペラ 1815 年

◆会 期 2024年10月21日(月)～2025年1月19日(日)

◆開館時間 9:00～17:00 (入館は 16:30 まで) ◆入館料 無料

◆会 場 玉川大学教育博物館第 2 展示室 ◆主 催 玉川大学教育博物館

◆記念講演会 ①「イコンに祈る—ウクライナ戦争をキリスト教はどう考えるのか—」  
講師 角茂樹氏 (玉川大学客員教授) 11 月 30 日 (土) 14:00～15:30

②「イコンのみかた—東方正教会の美術にであう—」

講師 瀧口美香氏 (明治大学商学部准教授) 12 月 15 日 (日) 14:00～15:30

◆ギャラリートーク 11 月 4 日 (月)、12 月 20 日 (金)、1 月 17 日 (金) 各回 14:00～15:00

## 新館長就任あいさつ

教育博物館長 永山裕二

本年7月に教育博物館の館長に就任いたしました。私は、これまで教育や文化に行政の立場で携わってきました。令和2年7月から約2年間は、全国に5つある国立博物館を設置する独立行政法人国立文化財機構の管理運営にも携わりました。機構のオフィスは東京国立博物館平成館の中に置かれており、文化財の存在が身近にありました。今回改めて、博物館という文化的環境の下で仕事ができることを大変うれしく思っています。これまでの経験を活かして、教育博物館の発展に力を尽くしたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

令和4年に博物館法の改正が大規模なものとしては70年ぶりに行われました。改正法では、博物館が果たす役割として、「地方公共団体、学校、社会教育施設などの関係機関や民間団体と連携協力し、教育、学術、文化、観光など地域の活力向上に寄与する」旨が新たに明記されました。玉川大学教育博物館は、玉川学園の創立者小原國芳の「本物に触れる」との教育理念に沿って、学園が設置する幼稚部から大学院までの教育に役立つ教育資料や芸術資料を収集し、これらの資料を実際に学園の教育に活用しています。教育との連携協力という点では、博物館法の規定を既に具現化しているものと言えます。一方で、地方公共団体や民間団体など他の機関との連携協力という点では必ずしも十分ではないのが現状ではないかと思えます。博物館法改正も踏まえて、「社会に開かれた博物館」として、地域の人々の知的好奇心を刺激し、多様な学習ニーズにこたえる活動を通じ、地域の活力向上に寄与していくための方策を関係する皆さんとともに模索していきたいと考えています。

今後の教育のあり方を考える際の重要な視点として「不易と流行」ということが言われます。大学を取り巻く環境は、急速な少子化の進展、生成AIをはじめとするAI技術の進展など大きく変化（「流行」）しています。先行きが不透明で将来の予測が困難な時代においても変わることのない立ち返るべきものが「不易」です。小原國芳が教育理念として提唱した「全人教育」はまさに「不易」であり、「本物に触れる」活動などを通じて玉川学園の教育に貢献することが教育博物館の役割です。5年後の2029年に迎える玉川学園創立百周年に向けて、教育博物館の学芸員と職員とともに広く関係者の意見をいただきながら、教育博物館の充実に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

## 報 告

### 外地教科書コレクションの購入

2024年2月末に、台湾・朝鮮半島等の旧外地で作成・使用されていた教科書等2,358点を、個人で収集されていた方から譲渡していただきました。今回入手したものは、2020年に「近代教科書関係資料」(12,728点)として国の登録有形文化財に登録された当館コレクションを、補完するものです。受け入れに際し、員数・書名等の確認を行い、現在資料整理を進めています。

### 日本画作品の受贈

2024年3月21日、1950年に玉川学園高等部を卒業された日本画家の岡信孝氏から、「富士雲月」と題する作品をご寄贈いただきました。6月21日には岡氏が来館され、小原芳明理事長からお礼のご挨拶をいたしました。作品を囲みながら、岡氏から作品制作に関わる様々なことや、祖父川端龍子の下での内弟子修業時代のことも伺いました。



岡信孝氏（左）と小原芳明理事長

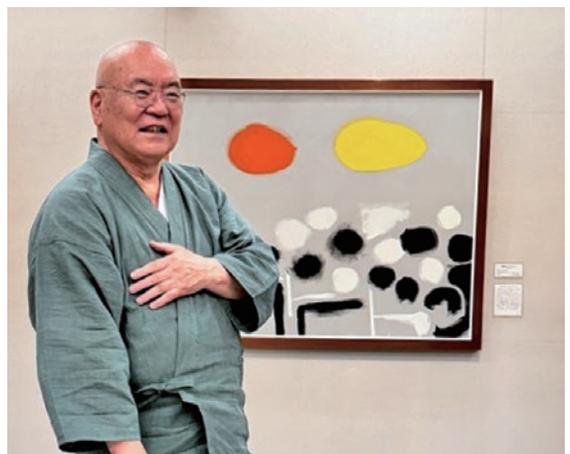
### 藤澤知之氏インタビュー

当館で所蔵するイタリアを中心とする20世紀美術の作品群は、玉川学園に通うご子女の保護者・保証人で、本田技研工業株式会社の副社長を務められた、藤澤武夫氏（1910-1988）からご寄贈いただいたものです。1970年代から80年代にかけて受け入れた、

これらの絵画・彫刻・版画作品約110点は、通常の展示の中でもその一部を展示し、ご紹介しています。

ご寄贈から40年ほどが経ち、当館の職員も世代交代し、ご寄贈当時のことを直接知る者がいなくなっていました。そこで2024年5月30日に、藤澤武夫氏のご子息で玉川学園の卒業生でもある藤澤知之氏を当館にお招きし、学芸スタッフ一同で当時の事情などのお話を伺う機会を持ちました。

父・武夫氏の人となり、諸芸術に対する姿勢や交友関係、父子同行でのヨーロッパの画廊巡りの作品収集旅行、玉川学園への作品寄贈のことに加え、知之氏ご自身の在学中のことや、各地で作品収集を手掛けられた際の思い出など、貴重なお話をお聞かせいただきました。



藤澤知之氏

### 通信教育課程博物館実習

2024年8月5日から10日まで、本学教育学部教育学科通信教育課程の夏期学芸員スクーリングで、博物館実習を開講しました。当館の学芸スタッフと、博物館・文化財関係の業務に携わる非常勤講師の先生方の指導の下、合計52名の受講者が3組に分かれ、当館展示室での資料取扱いの実習をはじめ、校舎の教室等も活用し、10のテーマで実習を行いました。



美術作品の展示実習

### 通学課程博物館実習

2024年9月には、本学の通学課程で博物館実習を履修している学生たちの、館務実習を受け入れました。2日から5日まで9名、9日から12日まで7名の合計16名が、実習をしました。実習では、館内の施設見学、展示ケース内の清掃とそれに伴う展示の撤去と復元、収蔵庫の整理、写真撮影、展示解説文の作成、特別展準備の手伝い、受入れ予定の資料の採寸など、博物館における学芸員の



特別展で展示する作品の搬出

実務の一端を体験しました。

11月発行の玉川学園の月刊機関誌『全人』で、当館の特集が企画されており、その一環で博物館実習もとり上げることから、編集担当者が実習生たちの様子を取材していました。

### 人の動き

2024年3月31日付で、石野利和館長・教授が退任・定年退職し、4月1日以降は客員教授として、引き続き当館に関わっています。

4月1日から6月30日までの間は、小原一仁学長・教育学部教授が、当館の館長事務取扱を務めました。

3ページのごあいさつにあるように、7月1日付で永山裕二教授が採用され、あわせて館長に任命されました。館長の任期は、2026年3月31日までです。

### 統計（2023年10月～2024年3月）

開館日数 106日 入館者数 1,685名

#### 収集

〔資料〕	教育	5件
	芸術	9件
〔図書〕	和書 50冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	30冊
	洋雑誌	4冊

### 資料をご寄贈いただきました（敬称略 2024年3月～8月）

岡 信孝	芸術資料	1点	久米 幹男	教育資料	108点
高島 航	教育資料	1点			

ありがとうございました

# 2024年度下半期 開館カレンダー

2024年10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2025年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

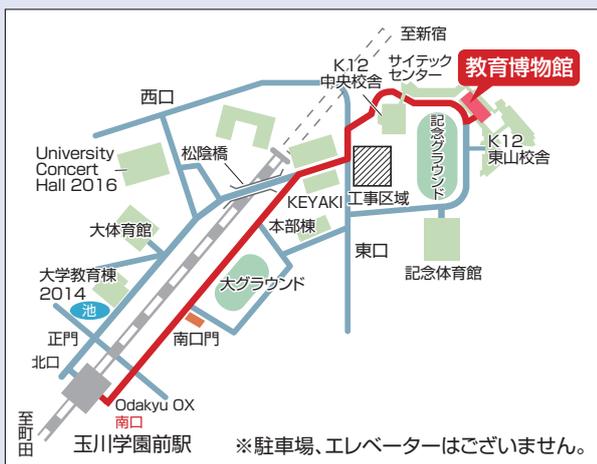
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- 休館日
- 第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開
- 玉川学園創立95周年記念特別展「アイコンにであう ―キリスト教絵画のみかた―」

※ この予定は、大学授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。  
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



## 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分  
 ※ 駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館にお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。  
 (来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮下さい。)

## 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 土・日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間等  
(詳細は当館ホームページをご覧ください)
- 入館料 無料

博物館ニュース SHŪ No.63

2024年10月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/institutions/museum/

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。  
 博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。